

平成25年11月7日  
中部地方整備局

## 伊勢湾再生を願う74団体が伊勢湾流域圏191箇所で一斉調査！

～平成25年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリングの結果（速報版）について～

**1. 概要** : 伊勢湾再生推進会議（行政14機関にて構成、別紙-1参照）では、伊勢湾再生行動計画の一環として、夏場に「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を行っており、このたびモニタリング結果を、速報版として取りまとめましたのでお知らせします。

- 調査期間 平成25年7月3日（水）～8月28日（金）
- 参加者及び調査地点（9月30日現在、[ ]は昨年度）
  - ・学校、個人、市民団体、民間企業など74機関 [52機関]
  - ・伊勢湾の海域33地点 [32地点]
  - ・伊勢湾に流れ込む河川等158地点 [153地点]
- 調査内容 パックテストによる簡易水質調査（下記5項目）  
COD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、  
硝酸態窒素、りん酸態りん
- 結果
  1. 参加団体数や調査地点数は、平成23年度以降増えています。
  2. 市街地の中小河川や支川に、有機物による水の汚れを示すCODの観測値が高い地点がありました。
  3. 絶滅危惧種のアカザが岐阜県内で観察されました。
  4. ペットボトル、発泡スチロール、焚火あとなどのゴミが各地で確認されました。

このように、水質、生物の生息状況を継続的に把握することで、伊勢湾流域圏における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様が伊勢湾に関心を持たれ、伊勢湾再生への意識を高めることが出来ました。

伊勢湾再生推進会議では、引き続き、「人と森・川・海の連携により健全で活力のある伊勢湾を再生し、次世代に継承する」ことをスローガンとして、伊勢湾再生行動計画に基づき伊勢湾再生に取り組んでいきます。

**2. 資料** : 平成25年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果（速報版）の概要

※ 一斉モニタリング結果（速報版）は、ホームページからダウンロードしていただけます。

[http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai\\_ise/b\\_issei.htm](http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_issei.htm)

**3. 配付先** : 中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先 : 伊勢湾再生推進会議事務局  
国土交通省 中部地方整備局  
港湾空港部 海洋環境・技術課  
課長補佐 渡邊 弘 TEL : 052-209-6329



伊勢湾再生推進会議の構成機関

国土交通省 中部地方整備局  
海上保安庁 第四管区海上保安本部  
内閣府 内閣官房 地域活性化統合事務局  
農林水産省 東海農政局  
林野庁 中部森林管理局  
水産庁 漁港漁場整備部  
経済産業省 中部経済産業局  
環境省 中部地方環境事務所  
岐阜県  
愛知県  
三重県  
名古屋市  
名古屋港管理組合  
四日市港管理組合

# 平成 25 年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果(速報版)の概要

## 1. モニタリングの目的

水質、生物の生息状況を継続的に把握することで伊勢湾流域圏全体における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様から伊勢湾に関心を持っていただき、伊勢湾再生への意識を高めることを目的としています。

## 2. モニタリングの実施内容

今回の一斉モニタリングでは、海の水質が悪くなりやすい夏の時期に、伊勢湾の海域（33 地点）や伊勢湾に流れ込む河川の集水域（158 地点）で、学校、個人・市民団体、民間企業など 74 機関が参加して、水質等を一斉調査しました。（調査地点数、機関数は 9 月 30 日現在の集計値）

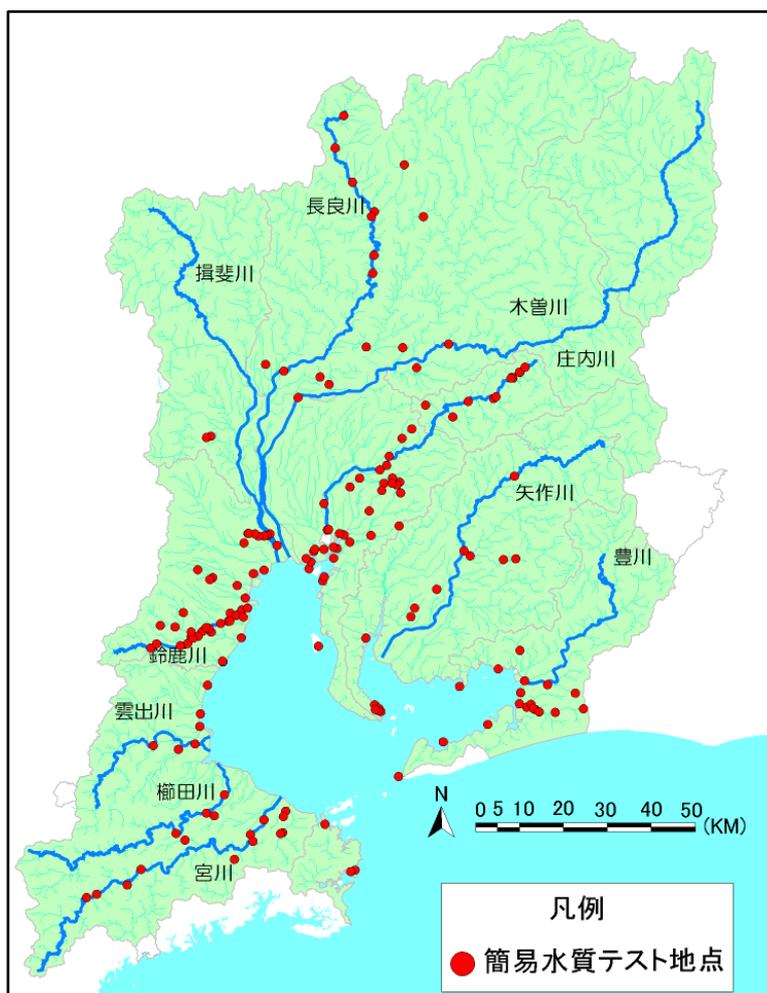
水質の調査には、簡易に水質がわかる調査キット（＝パックテスト）を活用しました。

### (1) モニタリング期間

平成 25 年 7 月 3 日（水）～8 月 28 日（金）

### (2) モニタリング調査項目

今回は、主に市民の方々が参加した「簡易水質テスト」の結果をまとめました。自治体を実施する分析による水質調査も含めた「確定版」は、年明け頃に公表予定です。



平成25年度 一斉モニタリング 簡易水質テスト実施地点

### (3) モニタリング調査結果の一例

調査キットによる簡易水質テストの結果から、伊勢湾流域圏の水質の分布がわかりました。

#### GOD（化学的酸素要求量）

有機物による水の汚れを示します。有機物を酸化剤が化学的に酸化するとき消費する量を酸素量に換算したものです。汚れた水になるほど値が大きくなります。



GOD（簡易水質テスト結果）

庄内川等の市街地を流れる河川で観測値が高くなっており、有機物による汚れが大きくなっています。また、中小河川や支川においても、観測値が高いところがみられます。これは、大河川に比べて水の量が少ないところへ生活排水が流入しているためと考えられます。

#### PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>-P（りん酸態りん）

PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>-Pは植物の生育に必要な要素であり、生物の死骸により供給されますが、生活排水、肥料にも多く含まれ、PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>-Pが増加すると、富栄養化の原因となり、藻類の異常発生をもたらします。



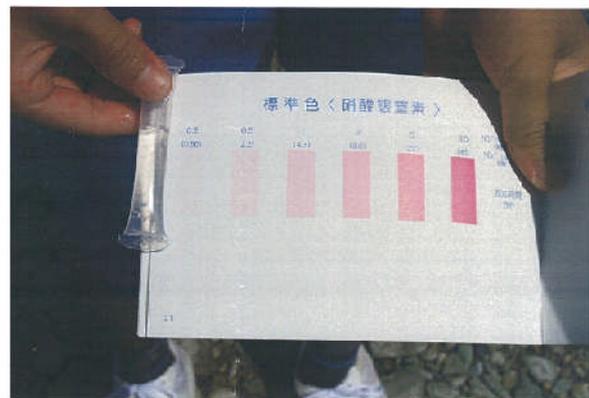
PO<sub>4</sub><sup>3-</sup>-P（簡易水質テスト結果）

ところどころで0.11mg/L以上の高い値が観測されており、生活排水の影響や田畑からの肥料の影響が考えられます。伊勢湾に流出すると富栄養化（藻類の異常発生）の原因の一つになるので、今後も確認していく必要があります。

### 3. 調査の風景



調査キットによる水質調査の状況



調査キット（パケットテスト）による水質の測定



川での生物観察の状況



観察されたアカザ（絶滅危惧種Ⅱ類（VU））

#### 4. モニタリング詳細情報

一斉モニタリングの結果（速報版）の詳細は以下の URL より御覧になれます。

URL : [http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai\\_ise/b\\_isei.htm](http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_isei.htm)

# アピールエリアの取り組み

アピールエリアは、伊勢湾再生の目標としている「多様な生物が生息・生育する地域」、「人々が海と楽しく安全にふれあえる地域」、「活力ある地域」を代表する地域です。伊勢湾再生推進会議では、伊勢湾再生に向けた取り組みがなされ改善効果を身近に体感・実感できる7地域を選び、取り組みの効果をモニタリングしているところです。今年の一斉モニタリングでは、アピールエリア内でも35地点※で調査が行われました。

※7地域の合計値



出典：木曾川上流河川事務所

4 伝統ある鵜飼が行われている清流  
金華山周辺



出典：名古屋港湾事務所

5 伊勢湾を代表するウォーターフロント  
名古屋港地区

3 大都市近郊の豊かな自然にふれあえる日本最大の国営公園  
木曾三川河口



出典：三重県



出典：愛知県

6 三河湾最大の干潟でアサリの名産地  
一色干潟

7 干潟とマリナー利用が共存する三河湾を代表する観光スポット  
蒲郡・豊川地区



出典：愛知県



2 河口干潟と白砂青松、自然を活かしたレクリエーションの場  
雲出川・榑田川の河口



出典：三重河川国道事務所

1 リアス式海岸を有する伊勢湾を代表する自然景勝地  
二見・鳥羽地区



出典：三重県